

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより

きらりNet

平成26年3月7日
第41号
秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

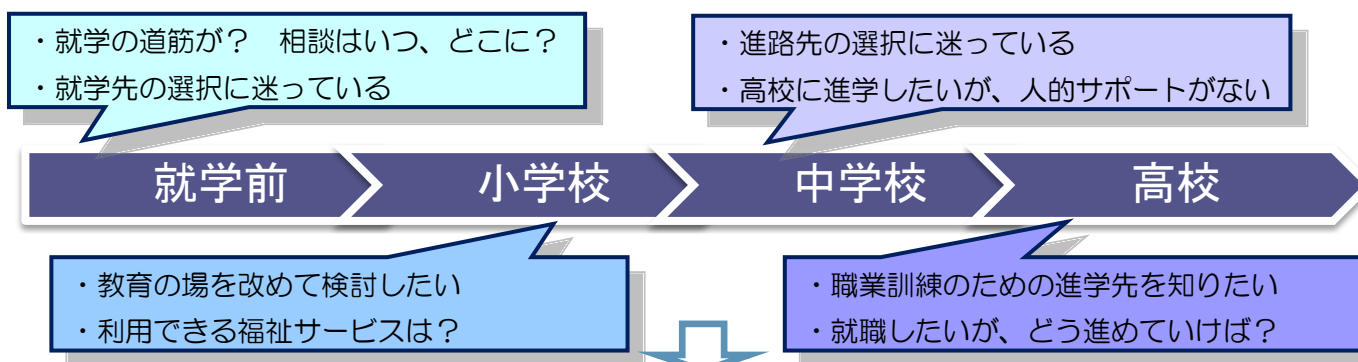
医療療育センターと連携した相談支援の現場から…

障害児・者への総合的な療育・教育支援を図るため、「秋田県立医療療育センター：総合相談・地域療育支援部」には特別支援学校から「教育支援員」が配置され、発達等に関する相談に応じています。

就学前のお子さんから、中学校・高校の思春期・青年期に至る相談。そこには、就学や進路に関する迷い、不安など、本人・保護者のニーズがあり、その対応が求められます。

ここでは、その相談内容、相談対応の一端をご紹介します。

【相談から見えるニーズ（声）】



年代	必要となる情報（支援）
就学前	→就学手続きの流れ／具体的な「相談時期（7・8月までに）」と「窓口（市町村教育委員会）」 →「多様な教育の場」に関する情報（特別支援教育支援員、通級指導教室、交流及び共同学習）
小学校	→入学後の学校状況の把握（保護者⇔学校）／特別支援教育コーディネーターの存在と役割 →福祉サポートの地域資源情報（日中一時支援、短期入所、登下校・放課後支援 等）
中学校	→高校進学ケースの情報 / 特別支援学校高等部の情報
高校	→特別支援学校が有する進路指導に関する情報やノウハウ

障害のある幼児児童生徒と、その家族には、「年代、障害の状態、家庭状況」などの背景から、医療、福祉、労働、教育等に関するニーズが、複合的に重なり合い、つながっている、と感じています。

そのニーズに、総合相談・地域療育支援部の専任スタッフと、教育支援員が協同し、「医療・療育・福祉サイド」から、また「教育サイド」から、それぞれの専門性を生かした支援をアプローチしていく。

そのことにより、多様性のある、複合的なニーズへの「総合的・一体的な支援」が図られていく…と感じています。また、そこに「教育支援員配置の意義」があると考えています。

本校教育専門監／秋田県立医療療育センター教育支援員 館山 峰夫

秋田県立医療療育センター「総合相談・地域療育支援部」 ☎018-826-8031

<相談対応>…入所・通園など本センター利用に関して、地域の福祉サービス利用に関して

年金・手当・手帳に関して、子育てや教育に関して

〔受付時間9～17時〕

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

平成25年度「きらり」を振り返って 副校長 榎山 節子

長く厳しかった冬も終わろうとしています。太陽の日差しが春を感じさせる今日この頃です。

開校から4年目、今年のきらりは校内体制を充実させるとともに、外に向かっていろいろなことに積極的に挑戦する年になりました。

その一つに「センター的機能の充実と外部連携の構築」が挙げられます。「きらり Net」でも随時お知らせしてきましたが、「きらり☆地区別研修会」の開催、肢体不自由特別支援学級への訪問、「特別支援教育セミナー」への出席等、県内の肢体不自由教育に関わるニーズに応じた支援に努めています。県内どこでも行きます。いつでも、お気軽に御相談ください。

また、地域に密着したボランティアを活用しての「児童生徒の夢をかなえるプロジェクト」にも挑戦しています。児童生徒が自分で考えたことを、校外の様々な方々の力をお借りして実現させていこうとするものです。自分で考えたことが実現していく時の児童生徒の表情は実に生き生きしています。

もう一つ大きな挑戦がありました。「第59回全国肢体不自由教育研究協議会秋田大会並びに第51回東北地区肢体不自由教育研究大会」の大会主管校としての開催です。「自立と社会参加につなげる特別支援教育の推進」～ 確かな授業改善をめざして～ の大会主題の下、平成25年11月13日(水)～15日(金)の3日間開催され、県外から380名、県内200名、計580名の参加がありました。「分科会時間の延長」「提案と参加者をつなぐ付箋の活用」等、新しい試みに挑戦した結果、提案者と参加者・助言者との双方向からの協議を実現できました。10分科会で計30の研究発表、68のポスター発表、合計98の研究発表が行われ、これまでで最も多い発表数となりました。

大会開催にあたっては、県内の特別支援学校、特別支援学級からもたくさんの御出席をいただき、盛会裡に終えることができたことに深く感謝申し上げます。また、本校職員も、全国大会開催に携わることで貴重な体験をし、多くのことを学ぶことができました。この成果を授業づくりに生かし、児童生徒に還元していきたいと考えています。

これからも様々な発信をしていきます。平成26年度も「きらり」をよろしくお願いいたします。

病弱教育におけるICTの活用 病弱教育コーディネーター 藤井 慶博

近年、教育現場におけるICTの活用が注目されています。ICTとは「Information and Communication Technology」の頭文字をとったもので、パソコンやデジタルテレビ等の導入により、児童生徒の情報活用能力の育成が進められています。病気による入院や治療のため、欠席又は遅刻・早退を余儀なくされる児童生徒の多くは、学習の遅れや、経験不足、心理的ストレス、孤立感等、様々な課題を抱えています。もし、コンピュータにより学校が病室や家庭とつながれば、病気の児童生徒の抱えるこれら様々な課題を少なからず改善できますし、学校にとっても児童生徒の状況をリアルタイムで知ることができるものと期待されます(もちろん、本人の教育的ニーズに基づいて行われることとなります)。現在、本校ではICT活用教育の推進に取り組んでいます。詳しくは「きらりNet第40号」を御覧くださいとともに、お気軽に御連絡をお願いいたします。

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 五十嵐 昌司 地域支援部 遠藤 美和子

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

